

事例2 単元「人物の考え方や生き方をとらえよう～わらぐつの中の神様～」

人物の考え方を読み取り、交流により考えを広げよう

国語 第5学年
能美市立福岡小学校

1 事例の概要

本校は昨年度より「児童生徒の『活用力』向上モデル事業」の推進校として、国語科、算数科をとおして研究に取り組んできた。説明文や物語文の学習を活かしての「活用力」向上をねらった単元計画の実践は積み重ねることができた。しかし、叙述をもとに論理的に読む力や学び合うことにより自分の考えを広げたり深めたりする力が児童についているか、という観点に立てば課題は多い。「論理的な読みの力」の育成については課題設定の工夫、「学び合うことによって、自分の考えを広げたり深めたりする力」の育成については協同的な学びの手立てが必要とされる。

そこで、本単元では、叙述をもとに人物の考え方や生き方を対比させることにより、物語文を論理的に読むことやグループと全体の学び合いにより、考えを広げたり深めたりすることをねらって実践を行った。

A-1 研究主題・育てたい児童の力

A-2 研究構想図

A-3 研究の重点

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・生き方考え方を意識しながら物語文などを進んで読み、自分の考えを広げたり深めたりしようとする。(関心・意欲・態度)
- ・行動描写・会話などから人物像を読み取り、人物の考え方・生き方を比べることで、自分なりの考えをもつことができる。(読むこと エ)
- ・生き方考え方を交流し合うことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(読むこと オ)
- ・現在－過去－現在という物語の構成や擬態語について、その効果が分かる。(言語事項イ(キ))

(2) 指導上の工夫点(活用力向上にむけて)

① 課題設定の工夫

ア 初めの感想を交流する中で、登場人物の考えの変化や生き方に共感する意見を確認し、気持ちや考えを整理するに当たって、対比の方法があることを想起させる。

イ「何と何を対比したいのか」と問うことで、学習の目的を共有し、見通しを持たせる。

② 協同的な学びの手立て

ア 一人一人が目的を持って課題解決の学び合いに参加できるよう、一人勉強→グループ交流→全体交流の場を取る。

イ 一人勉強では、考えの根拠となる言葉について、人物によって色別の線を引かせる。

ウ グループ交流では、交流の目的・方法の確認やよりよい交流の仕方を明らかにして取り組ませる。全体交流では、グループ交流で高まった自分の意見を話させる。

③ 評価の活用

ノートに観点ごとの評価とふり返りを書かせる。

④ 活用につながる基礎・基本

本単元で習得した学習方法を活かして、3学期教材を含めた他の物語の登場人物との対比、書評等で、人物の生き方・考え方について広がりや深まりを持たせる。

B-1 指導案(指導にあたって)

B-2 指導にあたってのプレゼン資料

3 指導の実際

<p>授業1</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">おみつさんと大工さんの考え方を対比して読もう</p> <p>(グループ交流) → (全体交流)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">わらぐつを使う人の身になって作っているおみつさんの仕事への思いと、大工さんのいい仕事についての考え方が同じだな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二人の考え方が書かれている叙述に色別に線を引かせる。 ・大工さんの考え方と、おみつさんの仕事ぶりの共通点に目を向けさせる。
<p>授業2</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習をふり返り、人物の生き方・考え方について友達と交流し、自分の生き方・考え方のとらえ方を広げたり深めたりしよう</p> <p>(グループ交流) おみつさん、大工さん、お母さんの生き方・考え方を自分と対比して、学ぶこと、共感すること話し合う。</p> <p>(全体交流) 友達の考えを聞いて、自分の考えが広がったり深まったりしたことを話す。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">人物の生き方・考え方についてのとらえ方が広がり、深まった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ交流で自分の考えが広がり深まったりしたことをふり返らせる。

C-1 単元計画

C-2 授業1 考え方の対比 指導案

C-3 授業2 交流により考えを広める 指導案

C-4 掲示

C-5 児童のノート

4 成果と課題

(1) 成果

① 課題設定の工夫

児童は課題意識をもち続けながら学習することができ、人物の考え方・生き方を対比して読む力を向上させることができた。また、人物の考え方について根拠となる部分を短く選択したり、複数の根拠を挙げたりしてまとめるようになった。

② 協同的な学びの手立て

交流の目的・方法が常に意識され、グループ交流・全体交流の仕方が身についてきた。

③ 評価の活用

観点別評価は端的にふり返ることができ、有効であった。また、ふり返り文章は次時の学習計画に活かすことができた。

④ 活用につながる基礎・基本

登場人物と自分を比べたことは、自分を見つめ直す上でも重要であった。また、対比の考えを他教科等に活かすこともできた。

(2) 課題

- ・グループ交流で高まった児童の考えを全体の学び合いで活かしたりさらに高めたりする手立てや支援について、研究を深めていく必要がある。
- ・根拠を確認し人物について考える学習は、時間がかかる。ふり返りの時間確保のために、授業をどのように構成していけばよいのか、そのために児童にどのような力をつけなければならないのか、考えていかなければならない。
- ・単元の目標「読むこと オ」の「交流し合うことで、自分の考えを広げたり深めたりする学習」では、道徳との区別を意識した。しかし、道徳の価値項目に関する内容との関連は欠かせない。国語のねらい達成のための指導はどうあるべきなのか、研修を深めたい。